

復興応援体験ツアー～田植えと糸紡ぎ～

去る 5 月、石巻市桃生町で復興を進めるために企画された二つの体験ツアーが行われました。これらは、今後の石巻にとって重要なツアーだと思います。

まず、5 月 10 日、石巻市桃生町永井の田んぼで、東日本大震災からの復興を応援する「田植え体験ツアー」が行われました(『石巻かほく』平成 26 年 5 月 15 日)。

このツアーには、東京や大阪、名古屋などから親子 40 人が参加しました。参加した人々は石巻農協職員の指導を受けながら、10 アールの田んぼにはだしで入り、丁寧に苗を植えていきました。ほとんどの子供が田植えを初めてと話すとおろ、不慣れな田んぼに足を取られ尻もちをつく場面が見られました。

このツアーはいしのまき農協と全農みやぎ、コンビニエンスストア大手のサークル K サンクスの合同企画として行われました。この企画は今年で 3 年目を迎え秋には稲刈りも行われる予定となっています。

このような「田植え体験ツアー」を行うことで震災から 3 年が経った石巻の今の状況も知ってもらえるし、東京や大阪、名古屋などに住んでいて、普段体験できないことを体験できるとてもいいイベントだと思います。それと何よりいろいろな人が石巻を訪れてくれることで町の活性化にもつながり町も活気づくと感じました。

次に、17,18 日に石巻桃生町の農家で、羊の毛刈り見学と糸紡ぎ体験が行われました(『石巻かほく』平成 26 年 5 月 22 日)。

参加者は刈り取られた毛を丁寧に洗い、干して乾かす作業をし、指導員から糸紡ぎの指導を受けました。

この企画はものづくりを通じて東日本大震災の被災者を支援してきた「Tohoku Craft」(東京)が石巻の魅力を広く発信していこうと始めた企画です。この企画には地元の人も含め二日間で約 30 人の人が参加しました。

この体験イベントを企画した「Tohoku Craft」は東京在住のアート関係のコーディネーターやライターらで構成され、仮設住宅などで靴下やエプロン作りの教室も開き、被災者に「作る喜び」を伝える活動をしています。このようにものを作りながら被災した人たちとふれあうことが仮設住宅などで寂しい思いをしている人の思いを紛らわせられることができるとてもいいイベントだと思います。

普段都会で生活している人にとっては、このような体験は珍しく新鮮なものだと思います。そればかりか、ひよつとすると、地方の生活者の多くにとっても、日常からは遠い活動なのだと思います。このような体験は参加者の気持ちを新しくしますし、継続されれば被災地の復興にも役立つものだと思います。

今後、このようなツアーを定着させるには「石巻ならではの」と言われる体験企画を増やさないといけないと思います。上記の 2 企画のうち、田植えは石巻以外の色々なところで体験可能です。糸紡ぎも石巻だけのものではないと思います。石巻に来なければできない「オンリーワン」の体験イベントを作ることができれば、今後の参加に弾みがつくと思います。今後、私もこのような体験イベントに参加してみたいと思うとともに、その企画についても考えてみたいと思いました。

(大瀧裕也)

石巻市初の津波避難階段完成

国土交通省が石巻市新金沼、あけぼの両地区を通る三陸自動車道斜面に建設していた津波避難が 5 月 13 日完成しました。これは言うまでもなく、3 年前の東日本大震災において、津波来襲時に安全で円滑に避難できる避難施設(場所)の確保が重要であることが確認されたためです。

『河北新報』(5 月 14 日)によると、階段の高さは約 9 メートル、幅約 2 メートル、上部の方には約 20 平方メートルのスペースを設けてあります。階段上部の高い位置に設置されている太陽光発電による照明灯は、停電時にも消灯せず使用できます。また高い位置に設備されているため、遠くからでも確認することができます。

階段の手すりには、波形が採用されており力が入りやすく、滑りにくい構成となっています。膝への負担も少なくなることから片手でも上がりやすく、高齢者や子供も安全に避難できると思います。

他にも避難階段の場所をわかりやすくするためのフラッシュライト、雑草が生えにくい防草シートや車の進入を防ぐ進入防止柵なども設置されています。避難階段の入り口は普段施錠され、鍵は市や消防団、警察らが保管しています。緊急時は門扉の亚克力板を破り、手を内側へ回して解錠することが可能です。

今回完成した石巻市の 2 つの避難階段の他、東松島市に 6 カ所の同様な避難場所が整備されています。

石巻市に初の避難階段ができ近隣住民の安心感が上がり、また防災意識も高まり避難行動を円滑に行えるとします。そして石巻が災害に強い町に成長し、他の県や市などの見本になってくれればいいなと思いました。

ただ、次に大きな津波が来るのがいつのことになるのかわからないため、住民の間の緊張感を維持するのは容易ではないと感じています。東日本大震災後、数度の余震と津波警報が発せられた際には大勢の住民が大変な勢いで避難をしました。しかし、時の経過とともに恐怖心は薄れつつあり、最近では、市内でも津波警報が出ても避難行動は起こらなくなってきました。たった 3 年しか経っていないのに、もっとも大きな犠牲者数を数えた石巻市でも風化が進んでいると言わざるを得ません。

新しい避難階段には 1 カ所 500 万円の事業費がかかるそうですが、人の命が助かると思えば安いものです。しかし、避難階段があっても人が逃げなければ宝の持ち腐れとなります。津波警報が出たら逃げる、という当たり前のことを当たり前にするための工夫をこれから考えたいと思います。

(亀山清太)



第21回サン・ファン祭り

5月24、25日の土日、サン・ファンパークで「第21回サン・ファン祭り」が行われました。

今回のこの祭りは「順風満帆〜夢に向かって」をテーマにしさまざまなイベントや出店が企画されました。またこの祭りは、サン・ファン・パウティスタ号やサン・ファン館をPRするとともに子供たちの豊かな情操を培うことを目的におき、市民団体により組織される実行委員会により企画運営されていました。またこの日は、サン・ファン・パウティスタ号の復元船が海へ進水した日を記念して行われたお祭りです。

このお祭りでは、パーク内で数多くのイベントが開催され、24日の前夜祭では午後4時から午後8時まで行われました。ナイトイベントとしてスペシャルコンサートが行われ、イタリアンフードやカクテルバーなども出店されました。

25日は午前10時からおこなわれ、「仙台藩士会」による演武でオープニングセレモニーによってサン・ファン祭りが始まります。ステージイベントでは鼓笛隊、チアリーディング、吹奏会などが行われ、ちびっこ広場では、ふわふわドーム、ミニSLなどがありました。

また、ヨット体験クルーズもすることができました。館内イベントでは、3D立体映像見学会やフラダンス、マンドリン演奏などほかにも様々なイベントで体験や見学をすることができました。大人から子供まで様々なイベントを一日中楽しむことができました。

第21回目のこのお祭りは慶長使節の出帆後401年目にあたり、震災により休館していたサン・ファン館が再館後初の開催となります。震災を乗り越え新たな出発を迎え、未来へ向かう勇気と希望のシンボルとして盛大にこの祭りを開催しました。

震災でサン・ファン館が再開しこの祭りができるようになったことは、石巻にとってとてもいいことだと私は思います。このような祭りに人々が集まり、楽しむことは石巻の復興に役立つと思います。日常とは違う非日常的なことをすることによって、人は楽しむことができると感じました。

ほかの地域からお客さんを招くには、石巻というところがどのようなところなのか知ってもらうことが大切なので、この祭りを通したサン・ファン館と石巻のPRはとても重要です。もちろん、復興にも有益です。関係者の努力によるものだと思いますが、このサン・ファン祭りができたことは石巻の復興の印だと感じました。

(涌井翔太)

石巻を走るマンガッタンライナー

平成25年3月22日から初めて登場した仙台から石巻を走行する「マンガッタンライナー」が今年も登場します。

石巻市は故・石ノ森章太郎氏との縁に基づく「マンガを活かした街づくり」を推進しており、この列車は地域活性化のためJRと石巻市が協力して実現されました。現在、このマンガッタンライナーは「萬画の国・いしのまき」の顔として毎週土・日の2回運行しております。

萬画館を運営する「街づくりまんぼう」のホームページによると、マンガッタンライナーⅠは、平成15年3月22日から仙台市と石巻市を結ぶJR仙石線に登場しました。このマンガ列車は石ノ森作品の中でも人気の高い「サイボーグ009」「仮面ライダー」「ゴレンジャー」「ロボコン」の4つの車両から構成されています。

マンガッタンライナーⅡは、平成20年9月13日から運行スタートとなった初の全面フルラッピングのマンガ列車です。この列車は4両編成の車両でそれぞれ「サイボーグ009」「時代劇」「コメディ」「ヒーロー」とジャンルを分けた車両となっています。

マンガッタンライナーⅢは、平成23年の東日本大震災により、あおば通り(仙台)～石巻間の運行が困難となったJR仙石線のマンガッタンライナーⅠ&Ⅱに変わり、平成25年3月23日の石ノ森萬画館リニューアルオープンに合わせて登場した初めてディーゼルで走る気動車(キハ系)となりました。この列車は2両編成で、JR石巻線(小牛田・石巻・浦宿間)を運行しています。

石ノ森作品の熱烈なファンの知人は「今まではJR仙石線でしかマンガッタンライナーを見ることは出来なかったが、昨年から石巻線でも見られるということで、今年も楽しみにしていました。機会があれば石巻線のマンガッタンライナーにも乗車してみたい。」と胸を躍らせながら話をしていました。

マンガッタンライナーは、マンガを活かした街づくりの他にも、石巻の観光客増加にも繋がると考えています。マンガッタンライナーをきっかけに、1人でも多くの方が石巻に訪れ、石巻の活性化に繋がればいいと思います。

(阪口卓也)

＜お知らせ＞石巻港に「にっぽん丸」 ～ウェルカムフェスタ2014 in 石巻港～

○日時 平成26年6月12日(木) 12:45から21:30

○場所 石巻港中島埠頭

○客船 「にっぽん丸」(166.5m、22,472トン)

○入港セレモニー (大漁旗によるお出迎え、歓迎式典、伊達 武将隊演舞など)

○船内見学会 (事前決定者76名のみ)

○陸上イベント (石巻市・東松島市・女川町・松島町・宮城県の観光PR、ホタテ炭火焼き、石巻専修大学によるやきそば提供)

○出港セレモニー (笑遊会はねこ踊り、松宮流幸扇会、渡波獅子風流塾、柳の目獅子舞愛好会、鳴瀬鼓心太鼓、打ち上げ花火、ペンライトで見送り)